

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901290		
法人名	株式会社 三樹会		
事業所名	グループホームゆうゆうの家		
所在地	北海道旭川市豊岡8条2丁目1番8号		
自己評価作成日	平成25年3月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

転倒を予防し寝たきりを作らない為の筋力体操や、できる事を維持し、共に楽しめる生活作りを心がけている。
また、日常生活にメリハリを付け、清潔で快適な生活環境の維持に努め、QOL(生活の質)の向上が実現されるよう、心がけている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901290-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 25年 3月 27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は職員の休憩室や応接室等、いつでも目にする事ができる場所に掲示し、常に理念を意識できる環境にしており、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員や入居者様が近隣の商店での買い物をしたり、参加可能な方は地域のラジオ体操や盆踊り等の行事へ参加するなどして交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人の役員が当該地域の民生委員として活動しており。知識や経験を活かして地域の高齢者や近隣の方への支援活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、サービスの取組状況・外部評価結果などの報告や事業所の行っている活動状況等の報告を行い、会議の中で意見交換を行い、サービスの向上につなげていける様取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が開催する各種研修会への参加、不明点の照会や当ホームの空き状況や定期的な情報提供などを日常的に行い、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないと言う事は最も基本的な事であり、常に意識を高く持ち、注意を払っている。夜間は防犯上、玄関を施錠しているが、日中は施錠せず、安全に留意し、頻回に利用者様の所在の把握を行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報道や情報提供によって得られる、様々な虐待事例・情報等を、管理者と職員間で情報交換・共有を行い、注意を払って虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人代表や管理者は日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）や成年後見制度について知識をもち、必要な入居者の方については関係機関と連携し制度を利用していく体制になっているが、全ての職員が詳しい知識を持っているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前相談、入居時、退去時、料金改定時等には、担当する責任者より懇切丁寧な説明を心がけ、疑問点不明点などを解決し、安心してサービスの利用を出来るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、利用者様の要望等があれば、速やかに管理者に伝え出来る限り本人の要望に沿えるよう取り組んでいる。意見箱を設置し、ご家族の意見を出す仕組みを整えている。また、面会時にも意見や質問などを出しやすいよう配慮している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で職員と管理者との直接やEメールを利用したコミュニケーション、意見交換やが常に出る環境にあり、代表者・法人役員と管理者は密に情報共有をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人個人の能力・特性や希望などを考慮して、希望に沿った形でやる気をもって働いていけるよう支援している。また、勤務評定に応じて昇給や、一時金などで、本人のやる気を引き出せるようなシステムを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や、市内・道内で行われる北海道認知症グループホーム協会関係の研修会にて、該当する研修を受講している。 またそれ以外の研修会等や試験の受験等についても希望に応じて勤務の調整を行うなど、必要な支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表は一般社団法人北海道認知症グループホーム協会道北ブロックの地区理事を務め、また事務局を担当し、同業者との交流を日常的にしている。 また、地域の他介護事業所との交流や実践研修等の研修製受け入れを行う等、交流を通じて質の向上を目指した取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には特に頻繁に管理者や看護師、職員が本人の話を開く機会を作り、信頼関係を作るよう努めている。また、職員のケアの方向性、対応方法の統一、調整を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な時間をかけてご家族と面談を行い不安や疑問が無いように配慮し、また面会時等には傾聴を心がけ、その情報を管理者・職員間で共有し、調整した上で、不安等が生じることの無いよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の可能な選択肢があればそれを説明、理解して頂き、必要に応じて地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等の他専門機関の情報提供や共有を行い、支援をつないでいくなどの対応をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬意を礼儀をもって接しながら、世代を超えた交流により学び合い、支えあう関係を、日々のコミュニケーションを通じて築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	笑顔と礼儀を大切にしながら、ご家族の来所の機会等には気軽に話していただけるような雰囲気作りを心がけている。ご家族からの情報収集や意見交換等をする中で、ご家族も共にケア参加する意識を持って頂き、一緒にご本人を支えて行けるような関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限りご本人の意向に沿って、馴染みの人との連絡を取ったり、馴染みの場所へ足を運べるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の個性・性格・趣味等を把握し、日常生活の中での表情や言動・感情等に注意を払い、孤立や対立することの無いよう時には職員を交え、利用者同士が気持ち良く共に生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後であっても、何でも相談を受ける事が可能な旨をお伝えしており、退所後に相談に来られる事や、入居されていた方が亡くなった後に、そのご家族が入所される等の事例がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話・表情・行動等をよく観察することで、ご本人の意思を把握するよう努め、できる限り本人の意向にそった支援が出来るよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やご本人、その他の関係者より必要な情報収集を行い、入居後にも、ご本人やご家族等との会話を通して、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の1日の状態の変化・体調・訴えや行動等を個別に記録に残し、管理者・職員間で情報の共有、検討できる状態にあり、現状の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と管理者・介護支援専門員、職員は様々な点について意見交換を行える環境であり、家族の意向を把握し、利用者様本位の、原状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の他に、一人一人の利用者様用の連絡ノートを使用して情報の共有を図り、その中での情報を元にしながら実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的に地域資源の把握、発掘に努め、他の介護保険事業所や他業種の事業所との交流・情報交換・連携を図り、様々なニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人役員、管理者が町内に住んでいる事を活かして、特に近隣において、日常的に地域資源の把握、発掘に努め、ご本人の希望・力に応じて、買い物にいくなど協働できる関係作りを行い、安全で豊かな生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの御本人様の主治医への受診の支援を行い、状態の変化等により通院が困難になった入居者様への、訪問診療への移行の支援、常勤の看護師による日常の健康管理を行い、適切な医療が受けられるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に常勤の看護師がおり、日常の健康管理、医療機関受診の支援や職員との情報交換を常に行い、体調の変化がみられる場合も速やかに対処できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院する際は、入院の際の準備や、入院中の身の回りの世話、面会などを、ご家族の状況、必要性に応じて管理者や担当者等が行い、病院関係者との情報交換や連携に努め、早期退院を目指した支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本にご本人やご家族のご希望に応じて、最後まで看取る方針であり、かかりつけ医やご家族と連携し、職員とも方針を共有している。既に看取りの事例が複数あり、今後も継続していく予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを整備し、教育を行なっているが、すべての職員が応急手当について十分な経験・実践力を身につけているとは言えない状態である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中や夜間等を想定した定期的な避難訓練を行なうと共に、近くに居住している職員が多く、万が一の時には速やかに支援できる体制を作っている。また、災害に備えた必要量の備蓄を確保している。水害については旭川市の洪水ハザードMAPを参考にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格・プライバシーを尊重した対応を、常に職員同士が意識し、声を掛け合いながら行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご本人の意思で決定できるよう、それぞれの状態に合わせた働きかけ、声かけを行ない、自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の好みや性格、ペースや行動を把握して、個々に合わせて、本人本位のその人らしい暮らしができるよう、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で衣類等を選べる方には、ご自分で選んで頂き、職員が見守りながら、必要に応じてさりげないアドバイス等を行い、TPOや季節感等に配慮した身だしなみになるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御自分で出来る利用者様には、個々の力を活かして、下準備や片付け、テーブル拭き、おしぼりたみ等を共にやっている。 また、各利用者様の嚥下や疾病等の状態や嗜好に応じて食事を楽しむことが出来るよう支援をおこなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や疾病、病歴等による制限の有無や、習慣に応じた水分量や栄養バランスを考慮した栄養摂取ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行ない、御自分で出来る方もさりげなく口腔内の観察させて頂き、また適切な口腔ケア用品の選定・使用を行い、口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に、個人個人の毎日の排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレでの自然な排泄ができるように支援している。また、オムツ、パッドを使用する方も、トイレで排泄することにより、自然と使用量を減らす事ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を減らすために、適切な水分摂取やヨーグルト摂取、運動等により下剤になるべく頼らずに、自然な排便ができるよう、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に4日以上の入浴日を設け、ゆったりと入浴を楽しんで頂けるよう配慮し、本人の意思と希望に沿った入浴が出来るよう支援している。ご本人が希望すれば週に何度でも入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣に配慮し、適切な休息・安眠が出来るよう、職員間での睡眠状況の情報共有を行い、適度な休憩時間をとる事ができるように支援を行っている。寝具等も常に清潔な状態で使用できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容はいつでも確認できるようファイルしており、薬の処方変更等がある際には、ご本人の変化・副作用等に細心の注意を払っている。 服薬の間違いの無いよう、一包ずつ氏名・日付を記入し複数の職員でのチェックを行う等の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの嗜好・趣味や生活歴を把握し、それを活かした役割や楽しみごとの機会を設け、御自分で出来る喜びを見出して頂いたり、自信の回復につながるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じて、その日の体調に留意しつつ、外出・買い物や散歩等を楽しむ機会を作っている。また地域のお祭り等にでかけ、地域の方と交流する機会をもてるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度金銭の管理が出来る方には、外出時にお金を所持して頂き、買い物等を楽しめるよう支援している。その場合外出前と外出後に残高確認と小遣帳への記入・確認を行い、ご本人にも確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室には電話の配線がされており、ご希望に応じて自分専用の電話の設置が可能である。また、ご自分の出来る範囲に応じて自筆による手紙を書いたり、家族等と手紙のやり取りに伴う支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔な状態の維持を常に心がけ、毎日の清掃や、特にトイレの清掃は夜間も含めた1日4回以上行い、不快な臭い等の防止に努めている。また、季節感や生活感のある飾りつけなどに努め、できる限り家庭的な環境になるように心がけている。 共用空間には温湿度計、加湿器を設置し、温湿度調整に気を配り、快適な住環境になるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様のそれぞれのお気に入りの場所を把握し気のあう利用者様同士やお一人でも思い思いに楽しく過ごせるよう、配慮・工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾等、以前の生活で慣れ親しんだものを使用して頂き、居心地良い空間作りを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、適所に手すりを配置し、個々の状況にあわせた適切な声かけ、誘導方法や、家具や手すりの配置を考慮し、安全で自立した生活を送る事が出来るよう配慮している。		